

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302644		
法人名	医療法人 恕心会		
事業所名	グループホームぶなの森 2F		
所在地	福島県郡山市八山田6丁目45		
自己評価作成日	令和元年8月25日	評価結果市町村受理日	令和元年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和元年10月25日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の介護理念を基に、各職員が個性を生かし入居者様それぞれの思いに気づける様努めている。身体拘束委員会の発足により改めて不適切ケアが虐待に繋がる可能性の一つとして捉え、ユニットで掲げた目標の達成に向けて日々ケアに取り組んでいる。入居者様の思いを尊重し、相手の立場で物事を考え、声かけに配慮した支援を目指し、出来る限り自由に、自己決定が出来るよう職員間で情報を共有し創意工夫している。入居者様がいきいきと張りのある生活が送れるよう地域資源を活用しながらできる限りサポートできるよう努めている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念とユニットの目標をいつでも再確認出来るよう事務所と廊下に掲示している。今年度は職員一同入居者様の立場になり考えられるよう目標を掲げ、実践に努めている。又、年度末には目標を振り返り、それを踏まえて新たな目標を立案している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内クリーン作戦や芋煮会、地区の夏祭り・敬老会に参加し地域住民との交流を図っている。食材を買いに行っているスーパーや美容室では顔なじみとなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内の行事にボランティアを利用したり、中学生の職場体験の受け入れを行い、交流を通して認知症高齢者の理解を広められるよう伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2カ月に1回実施し、民生委員・包括職員・ご家族・介護相談員等に参加して頂いている。行事や事故報告等を行い、第三者としての意見・指導を頂いている。会議の内容は全職員へも周知し、日頃のケア・サービス向上に生かせるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設の取組状況や予定を記載した広報誌を定期的に送付し情報提供している。又、介護相談員の来所時、入居者様の状況を伝え助言を頂いたり情報交換している。又、入居者様も介護相談員の来所を楽しみにされている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、3ヶ月に1回会議を開催している。身体拘束撲滅の為にどのような取組をしたらよいか等を委員で話し合い、その内容を基に勉強会を実施、全職員が不適切ケアが身体拘束へつながることを認識した。不適切ケアとは何か、どのようにしたら防げるか全職員が考え、指針を立て取組んでいる。年2回研修会を行い身体拘束撲滅に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	項目6の身体拘束をしないケアへの取組同様、不適切ケアを虐待へつなげる可能性の一つとしてとらえ、施設全体として改善に取り組んでいる。入居者様の立場で物事を考え、声かけや促し方にも配慮するよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し資料等を用いて周知を図っている。又、職員各々で理解を深めるよう自主学習に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約制度の変更、報酬加算や重度化による料金の改定等の際には口頭・文書にて説明を行なっている。入居者様の心身状態より説明は主にご家族様に向けたものだが、入居者様主体の考え方で不安や疑問が軽減・解消される様な説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で入居者様との会話や行動等から把握した要望を記録に残し、それに対する対応や改善に努めている。ご家族に対しては意見箱を設置しているが投書は皆無に等しい為面会や行事、電話連絡の際に意見や要望を伺うようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やカンファレンス等で各職員が意見を述べられる機会を設けている。又、代表者・管理者は職員の個別相談にも随時対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は会議等に出席し、状況把握している。職員が意欲を持って取り組めるようアドバイス等している。又、新たに資格を取得した場合には手当てを支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が段階に応じた外部研修を受講する機会が設けられている。施設内研修を定期的に行い、外部研修報告等でレポートを提出し自己啓発に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際には他事業所の職員と交流を図り、情報交換している。又、個々でネットワーク作りにも努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に実態調査を行っている。入所後はセンター方式シートを活用し、ご本人の生活パターンや趣味・嗜好等の理解に努め、小まめなコミュニケーションや心身状態の観察を行い、困り事・心配事を見逃さないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査や面会時等にご家族様の思いを傾聴し、ご本人やご家族の意向を確認した上、今後のサービス提供に関して丁寧に説明し、共に考えながら信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方にもセンター方式シート記入して頂き、必要なサービスを見極め提供できるように努めている。又、適宜他事業所と連携し行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に調理など入居者様が出来る作業を行って頂き職員や他入居者様同士が協力し支えあう関係を築いている。又、取り組みの決定は入居者様主導で行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月写真を貼ったお手紙で近況報告しており、年に数回ご家族参加の行事を設けている。案内状を送付したり面会時に近況を報告し行事への参加の声掛けをしている。ご家族様にも介助のサポートをして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との関係を継続し途絶える事のないように、いつでも希望時には電話等をして頂いている。又、手紙や暑中がき等のやりとりや、一部の方では外出・外泊もされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個々に好意的に接する方もいれば、他入居者様に対して嫌悪感を表す方もいる為、職員が各々の関係性に配慮しながら関わることで入居者様が交流を図れるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したご家族様が行事に参加しサポートして下さったり、グループホームへ足を運ばれ入居者様と思い出話をされている。相談がある時は支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で入居者様の行動言動から思いを汲み取り希望や意向に沿って支援している。又、センター方式を用い必要に応じてのモニタリングを行い、思いが実現出来るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から生活歴をお聞きしてその方が暮らしてきた環境や生活をグループホームにおいても取り入れられるよう支援をしている。また入居者様一人一人の住み良い生活環境が整っているか常に経過や状況を観察している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に日々の生活している様子を記録し心身状態に変化が伴った際には職員同士で情報を共有すると共に申し送りノート等で周知している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当スタッフがモニタリングを行い、介護計画に反映させている。又、計画作成時にご本人やご家族の要望を確認しその人らしい生活が送れるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の様子・ケアの内容・関わり方等を詳細に記入し、スタッフ間で情報を共有し、又そこでの気づきやその後のケアを介護計画に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の心身の変化が生じた時等、入居者様やご家族がおかれている状況を考慮し他機関と連携しながら柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームの行事においてボランティアを活用し入居者様に楽しんで頂いている。又、地域の文化祭に入居者様が参加し歌を披露する等、個々のニーズに合わせて地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される際や入居後に、どの医療機関をかかりつけとするか、ご本人・ご家族に選択して頂いている。ほぼ全ての入居者様が母体クリニックをかかりつけとしており月1回往診を受けられている。他医療機関受診は極力ご家族様に対応して頂いており、やむを得ない際はグループホーム側で対応している。他機関受診時はご家族様とも受診内容・結果等を共有し連携を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身状態の変化時は速やかに報連相を行い助言や指示を受けている。変化時のみでなく、平日頃より連携を図っており、入居者様の心身の健康に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される際は管理者・看護師から心身状態を医療機関にお伝えしている。入院期間中は出来る限り面会に伺い、病院職員にも話を伺い状況の確認・把握を行っている。またその旨記録し周知している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取り介護の説明を行っており、入所時・入所後に同意を頂いている。看取りの段階になった際には適宜ケアプランの作成・見直しを行い、よりよい終末期を迎えられるよう努めている。またご家族様とも密に連絡をとり協力を得ながら、ご家族様も安心して送りだして頂けるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師により個別マニュアルが作成してあり、適宜見直し・変更時の周知を行っている。全スタッフが応急手当や急変時の適切な対応が出来るとは言い難い。今後取り組んでいけるよう努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含め、年5～6回避難訓練を実施している。入居者様を避難誘導する訓練だけではなく、スプリンクラー・警報装置等機器の取り扱いの勉強や入居者様居室から出火したことを想定した訓練等、新たに取り入れ行っている。今後入居者様が行方不明になったことを想定した訓練等も取り入れていく予定。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの人格を尊重し、その方に合った声掛けを行っている。挨拶や感謝の言葉を忘れず伝えている。職員全員でプライバシー確保について話し合いも行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う際は無理強いする事なく日常生活の様々な場面で選択肢を用意し、入居者様が自己決定できるよう声掛けを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様ひとりひとりのペースに合わせて生活して頂いてはいるが、外出等ご希望に添う事が難しい場合は丁寧に説明しご理解頂き、改めてご希望に添えるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時にお化粧や整髪・洗顔の声掛けやホットタオルでの介助を行っている。散髪の為の外出援助やマニキュア等のおしゃれを楽しむ機会を日常的に設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	野菜切り・盛り付け・味見等の調理を入居者様と共に職員が行い、一緒に食事を味わっている。又、何を食べたいか等話をし献立に加えたり、買出しに同行し旬の野菜を選んだり味わって頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食委員が入居者様の嗜好やバランスを考えた献立を作成している。カスピ海ヨーグルトやゼリー・ドレッシング等手作りを心掛けている。水分量も個々に応じた量を確保できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。自力で困難な方は介助し清潔保持に努めている。又、必要に応じて週に1回歯科衛生士の口腔ケアを行っている。又、歯科医や衛生士より職員も助言・指導を受け、口腔内の保清に取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所時24時間の生活パターンシートを作成し、排泄状況を把握している。定期的なトイレ声掛けやリハビリパンツ・パット類の使用等を検討し個々に合った、極力自立に向けた排泄を行えるよう支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療と連携し個々に合わせ多めの水分を摂って頂き適度な運動を取り入れている。腸の働きを良くするためカスピ海ヨーグルトにオリゴ糖を入れて1日1回摂取して頂いている。又必要に応じて下剤での排便調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日のご本人のバイタルを確認し入浴の声掛けを行い、体調や意思を確認した上で安全に入浴が出来る様支援している。又、体調不良や入浴困難な状況の場合は着替えや清拭・足浴等を行い清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中夜間共に好きな時間に休んで頂けるよう支援している。又、ご本人の体調や疲労感に応じて3午睡の時間も設けている。夜間眠れない方はリビングで職員と一緒に過ごして頂き、飲み物等を提供しながら話を傾聴し安心して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様に服薬ファイルがあり全職員が内容を把握・確認できるようになっている。与薬の際は誤薬がない様職員同士で声を掛け合い安全に内服して頂けるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事・興味のある事に生き生きと取り組めるよう支援をしている。掃除や調理等、役割を持って頂く事で張り合いがある生活が送れる様支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩・外気浴等、気分転換も兼ねて日常的に外出援助を行っている。ご希望に出来るだけそえるよう対応している。又、希望によりご家族とも協力しながら外食支援等も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様、ご家族の希望でご本人のお小遣いは基本的にグループホームで管理しているが、所持していない事で不安な方はご本人・ご家族に了承を得て一定の額を所持して頂いている事で安心感が得られている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から電話の希望があればご家族様が可能な限りお繋ぎしている。取次に関してはご本人に伺い、希望があればプライバシーに配慮し席を移動して頂いている。又、暑中見舞い・年賀状の作成も支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には月や季節に応じた飾り付けや、日常・行事の写真を掲示しあたたかみのある雰囲気の中で心地よく過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファに座ったり横になったりと、入居者様が自由に過ごして頂けるよう配慮している。又、個々の気分により移動式のミニテーブルを使用することで共有空間の中でも独りになれる場を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	使い慣れた家具・思い出の写真や絵・置物などを飾り、ご本人や家族と相談・工夫しながら居心地よく過ごせる様空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居時にご家族様に依頼しセンター方式シートを記入して頂いており、入居者様の状態把握に努めている。居室ドアに絵を貼ったり、座布団やクッションで椅子を調整したり、入居者様各々の状態に応じた対応をしている。入居者様各々の危険性を予測し未然に事故を防げるよう努めている。		